

第9号様式

区 分	□諮問事項 ■協議事項 □報告事項		
件 名	令和3年度浜松市浜北区市民活動表彰について		
事業の概要 (背景、経緯、 現状、課題等)	<p>【趣旨】 浜松市市民活動表彰要綱第3条により区長が推薦し、同要綱第6条により区行政推進会議で審査した団体について、浜北区協議会に意見を求める。</p> <p>浜松市市民活動表彰要綱第6条 (審査) 第6条 区長は、第3条の規定により推薦した団体の活動内容について、浜松市区における総合行政の推進に関する規則（平成19年浜松市規則第33号）第8条に規定する区行政推進会議において審査を行った後、区協議会に意見を求め、その意見を踏まえて区長賞受賞団体を決定する。ただし、別途審査会を設置し区長賞受賞団体を決定する場合はこの限りでない。</p>		
対象の区協議会	浜北区協議会		
内 容	<p>【推薦理由】 小野口の会は、地域の文化遺産を多くの人に知ってもらい、宅地開発等により失われることなく次世代に引き継ぐことを目的に、会報の発行や紙芝居、講座の開講などの活動を行っている。 設立してからまだ日が浅いものの、コロナ禍の中においても年間を通じて継続的に活動しており、地域のコミュニケーション形成にも役立っている。 今後も浜北区の文化振興、地域おこしに貢献する活動が期待される団体であるので、浜松市市民活動表彰区長賞の対象として推薦する。</p>		
備 考 (答申・協議結果を得たい時期、今後の予定など)	7区の区長賞受賞団体の中から、市長賞受賞団体を決定する。		
担当課	浜北区・区振興課	担当者	大林 克彦 電話 585-1141

必要に応じて、記入枠の拡大や資料等の添付をしてください。

令和3年度浜松市市民活動表彰区長賞候補団体について

団体名	小野口の会（平成30年12月団体設立）
団体の活動の目的	浜北区浜名地区（旧小野口村）の歴史を、地域の多くの方に知ってもらい、次世代に引き継ぐ事により、地域の文化遺産の消滅を防ぐとともに、会員自身も趣味を楽しむ。
活動のきっかけ	宅地開発に伴い、歴史的価値のある「道しるべ」が消滅してしまった事象をきっかけに、地域の歴史や文化遺産を多くの人に知ってもらい消滅を防ぎ、次世代に引き継ぎたく活動を始めた。
活動の実績	別添資料のとおり
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・月例会により会員相互で研鑽しあっている。 ・会報を発行し、地域の全世帯や小中学校・幼稚園等へ配付している。 ・紙芝居を作成して、機会ある都度上演している。 ・協働センターの事業に同調して、講座を実施している。 ・浜松地域遺産（認定文化財）の推薦活動をしている。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・月例会の他に現地学習を適宜実施し、レベルアップが図れた。 ・会報を繰り返し発行、配付することにより、認知度が高まり好評を得ている。 ・紙芝居は、上演のオファーをいただけるようになった。 ・講座は受講者から好評を得ており、今年度も開講する。 ・浜松地域遺産として24件認定を受けており、引き続き推薦していく。
この活動についてさらに発展させていきたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・会報を充実させたい（発行頻度、紙面の充実） ・紙芝居を充実させたい（本数、上演技術） ・独自の催しを実施したい（企画展、講座、現地見学） ・ホームページやYouTubeを活用していきたい。

「小野口の会」令和2年度の活動実績

(1) 会報の発行・配布（浜名地区全世帯＋小中学校・幼稚園＋協働センター他）

- ①第3号 R2年 4月発行 A4色紙両面モノクロ印刷×1枚×9千部
 - ②第4号 R2年11月発行 A3二つ折り全面カラー印刷×1枚×10千部
 - ③第5号 R3年 3月発行 A3二つ折り全面カラー印刷×1枚×9.5千部
- *第4号からは、なゆた・浜北や区内他地区の協働センターへも配布している

(2) 紙芝居の制作と上演

- ①制作（通年） 小野口の昔話×4話
「いたずら地蔵」「ごじんやがわの桜」「十人力の藤兵衛」
「まんじゅうやの嫁と蛇」
- *前年度までに作成済み×6話
「小野口の由来」「古墳の話」「失せ物稲荷」「かえってきた馬」
「小松村七五郎」「はたまが池」

- ②上演 学習成果活用講座 10月 2回3話
11月 2回3話
12月 1回2話（浜名協働センター）
 - 生きがい教室講座 10月 2回3話（浜名協働センター）
 - いきいきサロン 3月 1回3話（西ヶ崎上公会堂）
- *小学校・幼稚園や子供会等は、コロナ禍により上演機会が無かった

(3) 地域の歴史講座の開講

- ①学習成果活用講座「小野口で学ぼう、遊ぼう、楽しもう」
10月×2回、11月×2回、12月×1回 各2時間/回
受講者：各18名（一般募集）（浜名協働センター）
- ②生きがい教室講座「浜名地区の昔を訪ねて」
10月×2回 各2時間/回
受講者：延べ38名（一般募集）（浜名協働センター）

(4) 現地巡り会の開催

- 12月×1回 小松地区×14箇所（3時間）
参加者：19名（一般募集×10名＋会員×9名）

(5) 浜松地域遺産の推薦

- 8月～10月 43件（内野地区×16件＋平口地区×27件）
*小松地区は、R3年度に推薦予定

(6) 「浜名協働センターまつり」への参加

- *パネル展示および紙芝居の上演を予定していたが、コロナ禍により「協働センターまつり」が中止になったため未実施となった

以上

郷土の歴史を学び、文化遺産を未来に引継ぐ、

題字：内山恭子（会員）



小野口の会

小野口の名称は、浜名地区の旧村名で、明治41年に小松村、内野村、平口村が合併の際、それぞれの名前から一文字ずつ取って命名されました。

「小野口の会」発足にあたって

会長 ^{やまうち} ^{ただし} 山内 中

小野口地区（小松、内野、平口）を歩いていると、秋葉灯籠が15基、道しるべが33基、馬頭観音8体が目に入ります。その他にも、数多くの祠や石仏が路傍に置かれています。小さいけれど貴重な、長い歴史を秘めた文化遺産を、一人でも多くの方に知って頂き、消滅を防ぎ、次世代に引継ぎたいとの思いで発足した会です。月に一度の定例会、有識者や古老のお話を拝聴する会、会員相互の学習発表会、文化財を訪ねるウォーキング等を開催します。更に、紙芝居を作り幼い子たちとの交流を行い、お招き頂ければ、子供会、敬老会、町内会などにも訪問して、地元に残る歴史とお話をさせて頂ければと思います。地元に残る歴史と文化遺産を、一緒に学び、楽しみませんか。



小野口村の由来

明治22年に市町村令が公布されて、それまで独立していた小松村、内野村、半田村が一つの村になり、それぞれの名前から一字ずつを取って、小野田村が出来ました。更に明治41年に、半田が積志と一緒にいるため抜けて平口が入り、小野口村になりました。

昭和26年に、小野口村が町になるときに名前を、浜名郡だから浜名町としました。

昭和31年に、浜名町は北浜村・中瀬村・赤佐村・鹿玉村と合併して、浜北町になりました。名前の浜北は、浜名の北という意味です。浜松市より住みよい地域を創ろうと言う心意気の現れです。

昭和38年に、市制施行で浜北市になりました。更に、平成17年に、浜松市など12市町村が合併して、浜松市になり、平成19年4月に政令指定都市に移行して、現在の浜松市浜北区になりました。

各地区の名前の由来（現在は小松・内野・平口・内野台・染地台がある。）

小松：小松は、小さい松があったからと言われています。

沖、鮎ヶ瀬、小松尾島、内野小島は、昔は天竜川の河川敷であったからと言われています。

内野：宇治乃御厨（うじのみくりや）の転化でしょう。宇治は伊勢神宮内宮の所在地です。

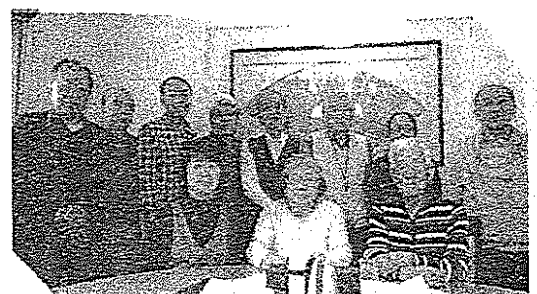
平口：平（野）は三方原を指し、（平）野の取っ掛かりだから平口になりました。

「小野口の会」入会のお勧め

郷土の歴史を楽しく学ぶ為、毎月第3金曜日の午前9時30分から浜名協働センターで勉強会を開催しています。皆様方のご参加を、お待ちしております。

連絡先：080-2643-8020 山内 宛て

裏面もご覧下さい



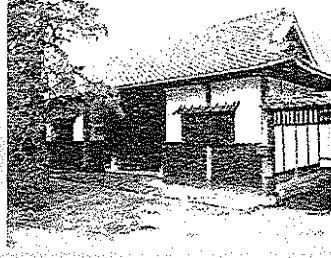
時折には楽しく食事会なども！

《お勧めウォーキング コース(小松地区の文化財を歩く)》

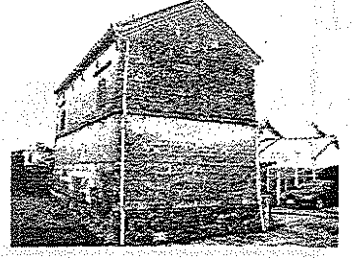
⑥ 失せ物稲荷



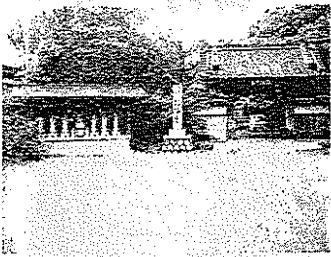
⑤ 袴田家長屋門 (枡屋)



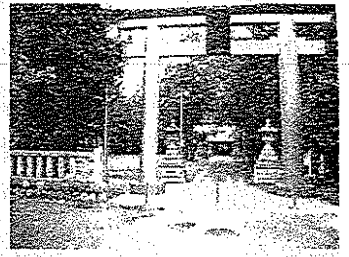
④ 伊豆石の蔵 (本町)



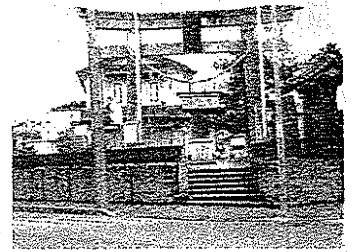
⑦ 紹隆寺 (沖の寺)
じょうりゅうじ



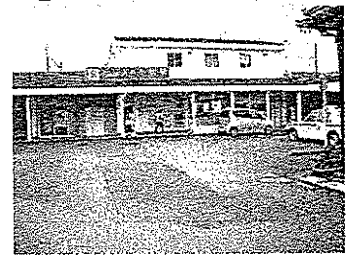
③ 小松八幡神社



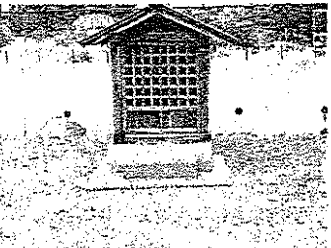
② 秋葉神社大鳥居



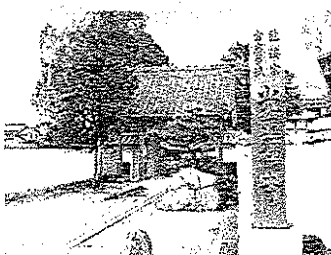
① 遠鉄電車小松駅



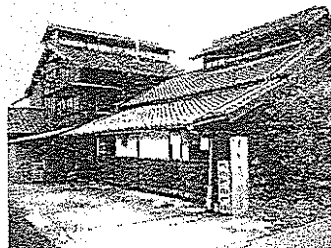
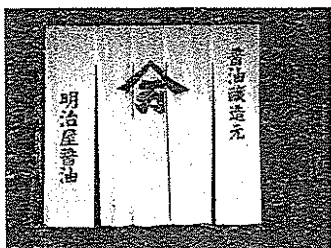
⑧ 村上神社
(藤兵衛の十人力)



⑨ 光正寺
こうしょうじ



⑩ 明治屋醤油 (登録有形文化財)



小野口の昔ばなし その1

小松の紹隆寺(沖の寺)の東側に、お稲荷さんがあります。江戸時代、小松村の庄屋・袴田家に、一人の行者が逗留しておりました。行者が、袴田家を出るとき「世話になりました。お礼の印です。大事なものを、置き忘れたり、失くした時にお願ひすれば、出てくるお稲荷さんです」と言ってお稲荷さんを置いていきました。袴田家では、祠を造って近所の人々と大切に祀っていました。



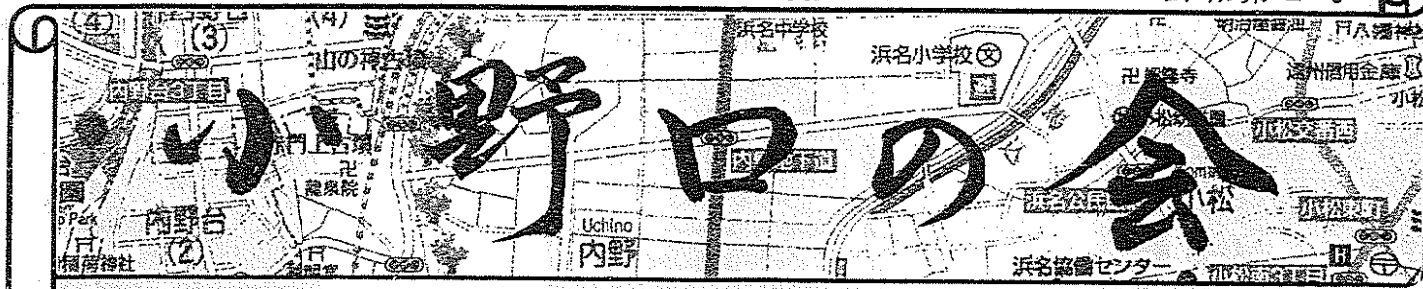
或る日、袴田家のお嫁さんのお母さんが亡くなった時、「お宅のお母さんから、お金を借りていました。返しますので、代わりに預けたものを返して下さい」と言ってきた人がいました。誰も聞いていないので、困つても聞いていないので、困つたら、夢にお稲荷さんをお願いしたら、夢にお稲荷さんが出てきてここだよと教えてくれました。教えられた場所を探したら、言われた通りの物が出てきました。皆さんも、何か忘れたり、困つたときは、「失せもの稲荷」をお願いしてみても如何でしょうか。

小松の失せもの稲荷 (左上の写真⑥参照)

「小野口の会」メンバー

- | | | | |
|------|-------|------|-------|
| 山内 中 | (内野台) | 山本卓雄 | (内野台) |
| 高林 正 | (小松) | 竹内竜弥 | (内野台) |
| 袴田悦史 | (小松) | 内山恭子 | (初生町) |
| 袴田和子 | (小松) | 平野宣男 | (平口) |
| 原田 勇 | (小松) | 足立一仁 | (平口) |
| 松田光子 | (内野) | 高林吉廣 | (新原) |
- ※順不同

郷土の歴史を学び、文化遺産を未来に引継ぐ、



小野口の名称は、浜名地区の旧村名で、明治41年に小松村、内野村、平口村が合併の際、それぞれの名前から一文字ずつ取って命名されました。

会長あいさつ

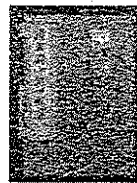
ひらののぶお
平野宣男



小野口の会初代会長山内中は、去る六月急逝いたしました。生前賜りましたご厚意・ご厚情に厚くお礼申し上げます。

扱、皆さんは「小野口」と「浜名」のどちらに愛着を感じますか。小野口が浜名になったのは、昭和二六年（1951）のことです。私は小野口小に入学し、浜名小を卒業しました。同じような経験をお持ちの皆さん方どの位いらっしゃいますでしょうか？令和の今では、確実に少数派です。小野口の会は、その小野口を振り返り、発掘し後世に残したいと考え活動しております。皆さんのお手元に、古書など伝え残したいものはありませんか。是非、お知らせください。微力な我々です。よろしくご指導ご協力をお願い申し上げます。

小 野 口 村 誌



小野口村が発足して5年後の大正2年（1913）に「小野口村誌」が発行されています。それを読みますと、「明治41年（1908）1月に県令により、小松・内野・平口を合わせて小野口村とし、役場を小松字光正寺海戸1236番地（光正寺内）に設置して初代村長に竹内市太郎氏が就任、後に（同年12月）役場の位置を現小松西向（今の浜名小学校東隣）に移せり」とあります。竹内市太郎氏は、小松西向の人で、その後昭和19年まで36年間村長を勤められ、今でも浜名小学校内に退任時に建立された頌徳碑が建っています。

この村誌には、小野口村の地理、沿革、社寺や名所旧跡、著名人、政治宗教、産業、風俗習慣など当時の様子が46頁に亘って詳しく記されています。

なお、この「小野口村誌」は浜北図書館の郷土史コーナーで閲覧できます。

会報第1号(6月発行)をご覧いただき有り難うございました。

浜名地区内の全世帯を回覧させていただきましたうえに、新聞にも取り上げられましたので多くの反響が寄せられました。

- ・小野口村歌（2番？）の紹介
- ・本人や両親、祖父母等が小野口村出身で懐かしい
- ・幼少期に小野口村に住んでいた
- ・栃木県出身だが、小野口姓である
- ・入会したい 等々

<小野口村歌>について 昭和22年頃、小野口小学校の講堂入口に歌詞が掲示されてあったようですが、ご存じの方は小野口の会までお知らせ願います。 ※下記は2番？の歌詞です

『名さえ動かぬ不動寺の 鐘のひびきに身を締めて
心には入れじ世の濁り 澄みに澄みたる心持て』

「小野口の会」入会のお勧め 郷土の歴史を楽しく学び伝える為、浜名協働センターを拠点に活動しています。 定例会：毎月第3金曜日午前9時30分から（現地巡り：同日午後）

裏面もご覧下さい

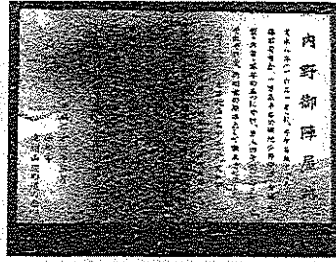
連絡先：会 長 平野宣男 053-586-0479 または
事務局 長 高林 正 080-5107-1328 まで

《お勧めウォーキングコース(内野地区の文化財を歩く)》

りょうせんいん
⑥ 龍泉院 (赤門寺)



⑤ 内野御陣屋跡



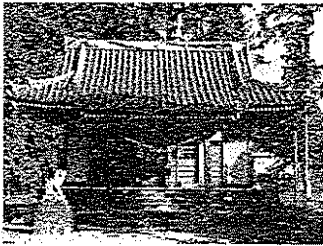
④ 開拓記念碑と秋葉灯籠



⑦ 小用通り



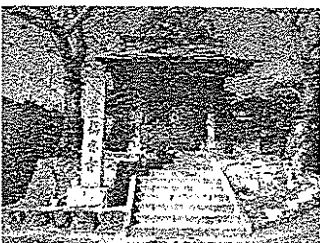
⑧ 内野神明宮



わかみやさま
⑨ 若宮様



ふくおうじ
⑩ 福應寺



小野口の昔ばなし その2

今から四百五十年ほど前の戦国時代、
広瀬川(今の御陣屋川)は川幅が広く、
橋が架っていないかったため、渡し舟を
利用していた。船頭は沢木一族の
又七ら三人が交代で務めていた。
ある日、又七の前に
鎧を着た兵たち五人
ほど表れ、「緋緘の鎧
を着た若武者が来なかつたか」
と尋ねた。
「いえ参りません」と答えたが、
「もし、表れても船を出してはならぬ、
もし出せばお前の命は無いぞ」と言っ
立ち去った。



若宮様

(左下の写真⑨参照)

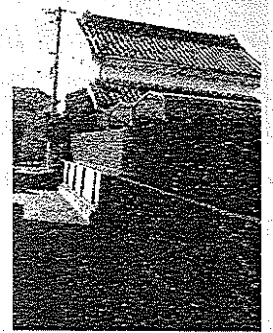


ほどなく、傷ついた若武者が現れ、
舟を出すよう又七に哀願した。
又七が出すべきか迷っていると、先
ほどの兵たちが戻ってきて、若武者に
切掛り、若武者は又七を睨んだ後必死
に抵抗したが殺さ
れてしまった。
この日から、又七
の家では農作物の不作、家族の病気な
ど不幸が続いた。きつと、若武者の祟
りだと、川岸に祠を建て、手厚くお祀
りした。
この祠は、今では「内野神明宮」拜殿
の西に「若宮様」として祀られている。

③ 御陣屋川と桜並木



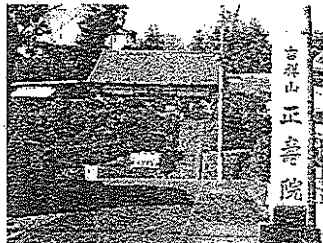
② 土蔵と煉瓦塀のある旧家



① 内野陣屋門

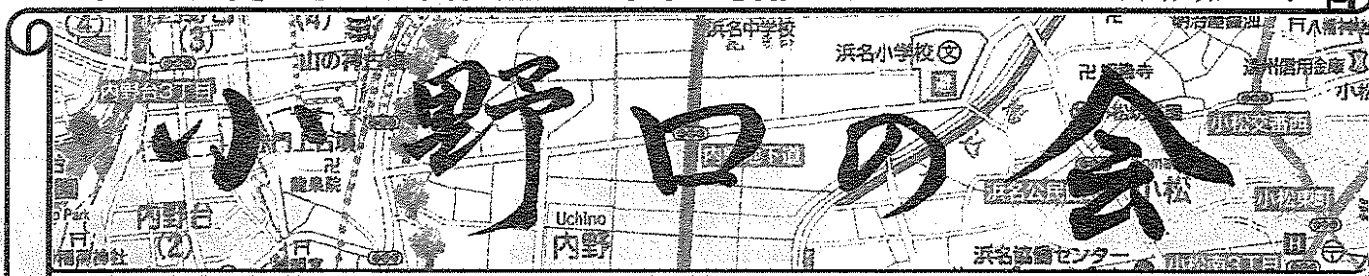


しょうじゆいん
⑪ 正壽院



「小野口の会」メンバー

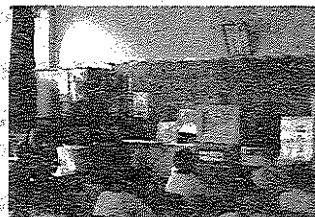
平野宣男 (平口)	袴田史子 (小松)
足立一仁 (平口)	高林正 (小松)
高林吉廣 (新原)	齋藤壽彦 (磐田市)
竹内富一 (小松)	竹内竜弥 (内野台)
袴田悦史 (小松)	山内圭 (新見市)
袴田和子 (小松)	松田光子 (内野)
原田勇 (小松)	山本卓雄 (内野台)
大久保靖枝 (中区)	※順不同



小野口の名称は、浜名地区の旧村名で、明治41年に小松村、内野村、平口村が合併の際、それぞれの名前から一文字ずつ取って命名されました。

紙芝居「小野口の昔ばなし」始めました

小野口の会では、「次世代に伝える」活動として、地域の昔ばなしの「紙芝居づくりと上演」に取り組んでいます。このたび、浜名小学校にて2年生を対象に、2月の「朝の読み聞かせ」の時間に上演してもらいました。学区内の小松と平口の昔ばなしより、「失せ物稲荷」「帰ってきた馬」「はたまが池」の3話を上演しましたが、子供たち誰もが興味深げに見入ってくれて嬉しかったです。3学期中に、2年生全クラスで上演する予定でしたが、残念ながらインフルエンザによる学級閉鎖や新型コロナウイルスの感染予防による一斉休校により、半分の2クラスしか上演できませんでした。「帰ってきた馬」と「はたまが池」は、浜名中学校美術部の生徒さんに作画をしていただきました。現在、新作づくりに鋭意取り組んでおり、レパートリーが随分増えてきました。小学校や幼稚園だけでなく、子供会やシニアクラブさんでも上演させていただきますので、是非お声かけ下さい。「小野口の会紙芝居一座」が出向きます！

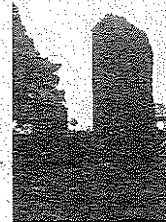


初代小野口村長 竹内市太郎氏



明治4年(1871)に小松西向の竹内儀七家の長男として生まれた。学業を終えた後、明治21年(1888)に役場に採用され、明治34年(1901)からは助役を務めた。(当時は小野田村) 明治41年(1908)に合併により小野口村が誕生すると、初代村長に当選した。その後、昭和19年(1944)に退任するまで連続で再選され、実に36年の長きに亘って重責を果たされた。この間、昭和15年(1940)に勲六等瑞宝章を受章されたほか、自治功労者として数多の表彰を受けられた。また、昭和15年(1940)からは浜名郡町村会長も務めている。退任後には、長年の功績を称え、頌徳碑が小野口小学校(今の浜名小学校)内の池の畔に建立された。近年校舎の建て替え等により池は消滅してしまっただが、石碑は位置を変えたものの現存しており、東側の細葉囲い越しに校外からでも確認できる。

退任後は、昭和21年(1946)3月まで小野口村農業会長を務めた。その後は一切の公職を離れ悠々自適の生活を送られたが、小野口村が浜名町に変わった翌年の昭和27(1952)年11月に病をえて急逝された。葬儀は、準町葬として浜名小学校の頌徳碑の前で行われた。その後、直系のご子孫は故郷を離れられたため、西向の生家は既になく、屋敷跡の細葉囲いがわずかに面影を残している。



会報第2号(12月発行)をご覧ください有り難うございました。

浜名地区内のより多くの方にご覧いただけるよう、全世帯に配布させていただきました。A4×1枚(両面)なので、掲載できる情報が限られていますが、いかがでしたでしょうか?感想等を会員までお寄せいただくと、大変ありがたいです。次号以降、紙面の充実と発行回数が増を目標としますので、ご期待ください。

「小野口の会」入会のお勧め

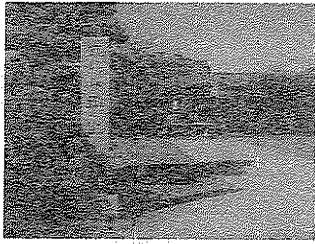
郷土の歴史を楽しく学び伝える為、浜名協働センターを拠点に活動しています。 定例会：毎月第3金曜日午前9時30分から(現地巡り：同日午後)

裏面もご覧下さい

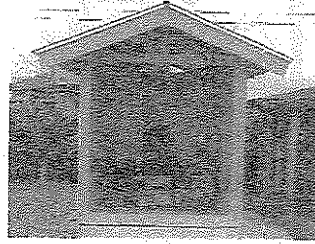
連絡先：会 長 平野宣男 053-586-0479 または
事務局 長 高林 正 080-5107-1328 まで

《お勧めウォーキングコース(平口地区の文化財を歩く)》

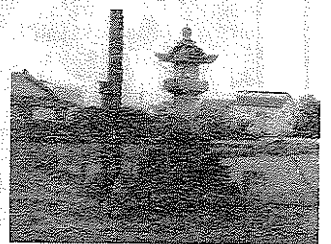
とくしゅうじ
⑥徳生寺



⑦いたずら地藏
(徳生寺内)



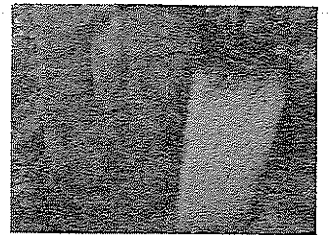
⑧秋葉山常夜灯



べんざいてん
⑤弁財天
(西福寺内)



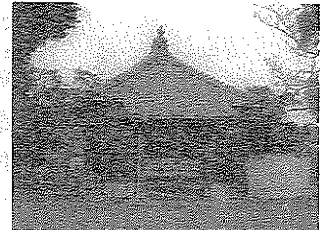
⑨道標
(法師軒団地南)



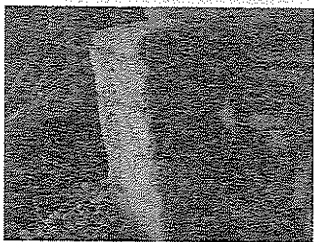
さいふくじ
④西福寺



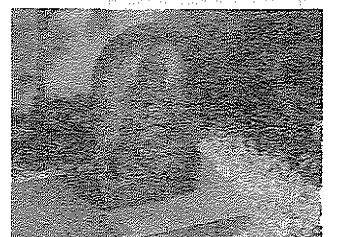
こんびらてんじんしゃ
⑩金比羅天神社



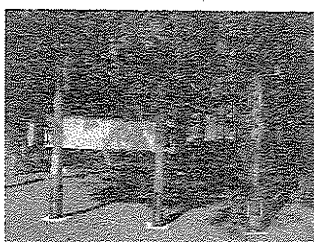
③道標
(製茶工場角)



ぼとうかんのん
⑪馬頭観音



②平口学校跡
(平口八幡宮内)



①平口八幡宮



小野口の昔ばなし

その3

昔、ある夜のこと、一軒の農家の表戸をしきりに叩く音がします。おばあさんが出て見ると、一人の見知らぬ小僧さんが立っていて「私は西福寺の小坊主だけれど、和尚さまから頭を剃って貰ってこいと言われました。どうか私の頭を剃っていただけませんか」と言うのです。

いたずら地藏

(上の写真⑦参照)

これがありましたとき。

もとより信心深いおばあさんです。早速お湯を沸かして綺麗に剃ってあげました。小僧さんは、喜んで帰って行きました。次の日の朝になって、おじいさんが髭を剃ろうとしました。ところが、カミソリが鋸のようにボロボロになっていて使い物になりませんでした。現在、西福寺とは道一本を隔てた徳生寺内で、立派な祠にお祀りされている「いたずら地藏」です。



※会報第2号の「若宮様」にて、船頭を沢木一族としましたが、大村一族の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

《小野口の会会員》

平野 宣男 (平口)	野末 加奈子 (小松)
足立 一仁 (平口)	高林 正 (小松)
平野 恵子 (平口)	齋藤 壽彦 (磐田市)
高林 吉廣 (新原)	鈴木 啓之 (西ヶ崎)
竹内 富一 (小松)	松田 光子 (内野)
袴田 悦史 (小松)	山本 卓雄 (内野台)
袴田 和子 (小松)	竹内 竜弥 (内野台)
原田 勇 (小松)	大久保 靖枝 (中区)
袴田 史子 (小松)	山内 圭 (新見市)

現在会員数 18名 順不同

浜名地区全戸配布

郷土の歴史を学び、文化遺産を未来に引継ぐ、



小野口の名称は、浜名地区の旧村名で、明治41年に小松村、内野村、平口村が合併の際、それぞれの名前から一文字ずつ取って命名されました。

こんな活動しています！

小野口の会もコロナ禍で暫く活動を休止していましたが、6月以降3密を避けつつ再開しています。

○各種歴史講座

- ・浜名協働センター生きがい教室
第1回 10月15日(木) 午前・午後 各1回
「浜名地区の昔を訪ねて」
- ・浜名協働センター学習成果活用事業講座
「小野口で学ぼう、遊ぼう、楽しもう」
第1回 10月10日(土) 「小野口の成り立ち」
第2回 10月24日(土) 「小松に残る文化遺産」
第3回 11月7日(土) 「内野に残る文化遺産」
第4回 11月21日(土) 「平口に残る文化遺産」
第5回 12月5日(土) 「小野口に残る古墳」

※その他にも、ご希望があれば講座を開設します。
(委細相談、車発でもOKです)

○定例会

- | | | | |
|------|-----------|------|-----------|
| 第17回 | 6月19日(金) | 第18回 | 7月18日(金) |
| 第19回 | 8月28日(金) | 第20回 | 9月18日(金) |
| 第21回 | 10月23日(金) | 第22回 | 11月20日(金) |
| 第23回 | 12月18日(金) | 予定 | |

○現地研修会(会員対象)

- ・9月18日(金) 午後
浜松市地域遺産センター「戦国の井伊谷」展
立須と滝沢展望台
- ・10月23日(金) 午後
浜松市博物館「浜松城一築城から現代へ」展
浜松市美術館「挑む浮世絵-国芳から芳年へ」展



※今後は、一般向けの現地研修会も企画して行きます。

↑浜松市地域遺産センター(井伊谷)にて(9月)



立須の岩登りに挑戦(9月)

小野口の昔ばなし
その4

昔、小松村の沖に藤兵衛さんと言う人が住んで居ました。

この人は、大変な力持ちで、人が十人かかっても動かさない木も、一人で軽々と動かしてしまいます。皆が「十人力の藤兵衛さん」と呼んでいました。

村人みんな、秋葉神社にお参りに行ったとき、山の中で大きなきれいな石を見つけた藤兵衛さんは、「これはいい石だ、持って帰って庭石にしよう」と肩に担いで帰って来ました。

天竜川で、渡し船に乗ろうとしたら、船頭さんが「そんな大きな石を乗せるなら、あと二人分船賃を払ってくれ」と言いました。そしたら藤兵衛さんは「こうすればいいだろう」と、自分の膝に石を乗せて澄ましていました。

ある秋の日の事です。藤兵衛さんは、稲刈りが終わって刈り上げた稲束をハズに干していました。そこへ通りかかった一人の武士が「不動寺に行くのは、この道で良

いのか」と尋ねました。藤兵衛さんは、頬かむりも取らずにハズの上から、あごで「真っ直ぐだ」と返事をしました。武士は「無礼者、侍が聞いているのに、頬かむりも取らずに、高いところで、あごで答えるとは何事だ」と怒りました。藤兵衛さんは「百姓が仕事をしている所だ。いちいち下りて行けるか」と謝りません。とうとう争いになってしまい、力持ちの藤兵衛さんは、この武士を殴り殺してしまいました。その後、暫くして

十人力の藤兵衛さん

家では、

次から次に目の病に罹り大変困りました。どうしたことかと、ご祈禱をしてもらったら、あの村上某という武士の祟りだと言われました。そこで藤兵衛さんは、小さな祠を建てて村上某神社と名付けて武士を祀りました。そしたら、家の人の目の病はずっかり治りました。



紙芝居の上演いたします

- ・演目、時間など委細相談に応じます
- ・1話だけでも上演いたします

- ①小野口の由来 ②失せ物稲荷 ③帰ってきた馬 ④小松村七五郎 ⑤はたまたが池
- ⑥いたずら地蔵 ⑦古墳の話 ⑧ごじんやがわの桜 ⑨十人力の藤兵衛
- ※その他鋭意作成中

小野口の会

- 定例会 毎月 第3金曜日 9:30~11:30
於 浜名協働センター
※午後は現地巡り(不定期)
- 年会費 1,000円(1月~12月)
- 入会 随時受付(7月以降の入会は半額)
- 入会申し込み・お問合せ連絡先
会長 平野宣男 053-586-0479
事務局長 高林 正 080-5107-1328

「お気軽にご連絡ください」

編集後記

「小野口の会会報」も本号で4号目となりました。皆さまには毎号ご愛読いただき、誠にありがとうございます。今まではA4用紙1枚裏表モノクロ印刷のチラシでしたので、お伝えできる情報も少なく、毎回物足りなさが残りましたが、今号からA3見開き4頁のカラー刷りにグレードアップいたしました。能力面、資金面から定期的な発行は、まだ難しいですが「浜名地区の文化遺産」等について「より多くの情報」を「より分かり易く」お伝えするよう、当年度3~4回の発行を目指して努力して参ります。また、素人の編集ですので、誤字脱字や読み難い点も多いかと思ひます。何卒、ご容赦いただきますと伴に、お気付きの点をご指摘いただけますようお願いいたします(正)

この会報は「公益信託子ヨタ遠越準一文化振興基金」より助成を受けて発行しています。

昭和二年(一九二七)に浜松市の財界からの要望を受けて、当時労働争議等の為に経営不振となっていた日本楽器製造株式会社(現ヤマハ)の社長に就任、争議を解決し同社の経営を立て直して発展進歩の基礎を固めた。この間、理研電化工業や小糸車両工業の取締役も務めた。

昭和二十一年・二十二年には、貴族院勅選議員、参議院議員も務めた。昭和二十五年(一九五〇)に社長を長男源一氏に譲り、会長に就任した。

昭和二十九年(一九六四)七十九歳にて逝去、勲三等旭日中綬章を授与された。また、昭和二十七年(一九五二)には私財を投じて川上嘉市育英奨励会を設立、郷土の学生に奨学の機会を与え、更に退職金、香典を

明治十八年(一八八五)に内野小島の家川上三郎家に生まれる。明治四十二年(一九〇九)に東京帝国大学工学科大学(現東京大学工学部)を首席(銀時計組)で卒業して東京瓦斯に入社する。翌年、住友電線製作所(現住友電工)に転職し大正十四年(一九一九)に同社取締役となる。

川上嘉市氏
第五代社長

小野口人物伝

《お勧めウォーキングコース（小松地区の文化財を歩く）》



①雷神社



西向部落の東の入口を守るお社
向かって左側の祠が雷神様です
右側の小さな方は津島神社で、
洪水の時に上流の平口法師軒から
流されてきたと言われていま
す
以前は山之神も祀られていて祠
が三つ有りました

②秋葉山常夜灯(西向)



上林歯科医院の北側に建つ
かつては、源之山橋の北側で鞘堂
に納められていたが、昭和45年に
道路整備事業により現在地に移転
された

③半僧坊道標(傍示木)



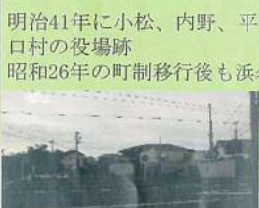
西向の追分（三叉路）にある
「右 ふどう」「左 かなさし道」
と刻まれているようだ
付近の人が「ボンジギ」と呼ぶの
は、境界などに建てられた標柱を
表す「傍示木（ぼうじぎ）」が訛つ
たものと思われる

④半僧坊道標(旧橋本理容店前)



西向の旧橋本理容店向にある
正面に「四里廿六丁」とある
明治17年建立

⑤役場跡



明治41年に小松、内野、平口が合併して出来た小野
口村の役場跡
昭和26年の町制移行後も浜名町役場として使われた
その後、浜北町、浜北市となっても浜名支所
や書庫として使われ、
放課後学童クラブにも
使われた

⑥竹内市太郎翁頌徳碑(浜名小学校)



浜名小学校敷地内（東側）
明治41年の小野口村創立より、36年
間その任にあった初代村長の功績を
称えて、退任後の昭和19年に当時の
小野口国民学校（現浜名小学校）内
の池畔に建立された 昭和50年代に
なって校舎建替により池は撤去され
たが、石碑は場所を移して現存する

⑦校舎の鯨瓦(浜名小学校)



本館校舎の玄関前
前身の小野口尋常小学
校創設時（明治42年）
より本館校舎（木造）
の大屋根上に有った
昭和34年に本館校舎建
替に伴い地上に降ろさ
れた

⑧二宮金次郎像(浜名小学校)



北側校庭に立つ石像
昭和26年11月に第二次世界大戦の講
和を祈念して奥野開十郎氏（平口）
が寄贈した
浜名小学校には、二宮金次郎像がも
う2体ある

⑨秋葉山常夜灯(沖)



沖公会堂敷地内
昭和33年建立

⑩小松七五郎住居跡



広沢虎造の浪曲でお馴染みの侠客
小松七五郎の住
居跡（小松尾島）
建物は新しくなっ
ているが、今でも
縁の方が住ま
われている

⑪秋葉山常夜灯(尾島)



理容店前
大正6年建立

浜名地区全戸配布

郷土の歴史を学び、文化遺産を未来に引継ぐ、

小野口の会

小野口の名称は、浜名地区の旧村名で、明治41年に小松村、内野村、平口村が合併の際、それぞれの名前から一文字ずつ取って命名されました。

こんな活動しています！

小野口の会では、マスクの着用や手指の消毒、3密を避けるなどの感染防止措置を徹底して活動しています。

○「小さな親切」実行章を受賞



本年1月に公益社団法人「小さな親切」運動本部より、会報の発行や紙芝居の上演など、地域の歴史を伝える活動について実行章をいただいた。

※ご関係の皆さま、大変有難うございました。

○浜松地域遺産認定制度への推薦

内野地区16件、平口地区27件の文化財について、所有者の承諾を得て、浜松市へ推薦した。推薦結果は3月末に発表される。
※小松地区の文化財については、令和3年度に推薦予定

○紙芝居の上演

3月8日(月)午前(西ヶ崎上公会堂)
西ヶ崎上の「いきいきサロン」にて、約30人の会員を対象に、「失せもの稲荷」「いたずら地蔵」「小松村七五郎と森の石松」の紙芝居3話を上演した。また、会報を配布するとともに「小野口の会」の紹介と「小野口と西ヶ崎の関わり」などの話もさせていただいた。

○「小松に残る文化遺産」現地巡り

12月15日(火)午前
浜名協働センターを起点に、秋葉神社小松島居、小松八幡神社はじめ14箇所を「小野口で学ぼう、遊ぼう、楽しもう」講座受講者のうち希望者他10名+「小野口の会」会員9名にて、2班に分かれて約3時間かけて徒歩で巡回した。

○定例会

第23回 12月18日(金) 第24回 1月22日(金)
第25回 2月19日(金) 第26回 3月19日(金) ※午後は、井伊谷方面の現地研修(天白磐座ほか)
第27回 4月16日(金) 予定 ※午後は、「みほとけのキセキ遠州・三河の寺宝展」(浜松市美術館)ほかを見学予定

小野口の昔ばなし

その5

御陣屋と小用町通り

江戸時代を通じて内野村の領主であった旗本大谷近藤家は、江戸時代も終わり近づいた天保十三年(一八四三)に、二百年続いた大谷(三ヶ日)の陣屋を内野に移し、内野近藤家と名乗るようになりました。

さて、三千石とはいへ、陣屋ができれば城下町と同じことで、代官のもとに多くの役人が詰め、年貢も集まれば、公事や訴訟などの訴えも上がって来ます。用事ができれば人も集まり、人が集まればお金も物資も集まればお陣屋の近くを流れていく。た辺田川は御陣屋川と改められ、浜松から人や荷物を載せた船便が着くようにもなりまし

た。こうして、陣屋の前の道筋には、料理屋、宿屋、伝馬宿や雑貨商店などが建ち並び、大きな用事は賄えきれないが小さな用事は足せる町だと、小用町とか小便町(しよんべんまち)と呼ぶ(しよんべんまち)と呼ぶ。川に今でも残る中馬橋は、



伝馬宿の傍らにあり、何時も馬がいた橋だったのだ。このように、非常に栄えた通りではありましたが、四半世紀後の明治維新により徳川の世は幕を閉じてしまいい、旗本の領地は没収され、陣屋は廃止されてしまいました。陣屋がなくなれば、人も物も集まらず、あれほど賑わった小用町通りも自然と廃れていきました。その上、明治二十八年(一八九五)の火災により建物の多くが焼け落ち、元の田舎道に戻ってしまいました。今では往時を偲ぶ建物等は、何も残っていません。陣屋の建物は、明治になってからも新しくできた学校として使われていたが、明治二十二年(一八八九)に暴風で倒壊されてしまいい、門を残して取り壊されてしまいました。この門は、その後内野上の池谷家に移築されています。現在も重厚な風格を誇っています。

○小野口の豆知識 <その1>

平口新田の公民館に祀られている観音像は、今年で300年です。石造りの立像で、台座に「享保六年初夏十七日」と彫られています。(享保六年=西暦1721年 初夏は、旧暦では卯月(4月)を指しますから、17日と云うと、現在の5月末頃になるのでしょうか?)

○小野口の豆知識 <その2>

小松の秋葉大島居は、来年2000年になります。岡崎産の花崗岩造りで、柱に「文政五年五月建立」とあります。(文政五年=西暦1822年 旧暦五月は、現在の5月下旬から7月上旬になる) ※32年後の安政元年(1854)11月に、大地震で笠が倒れ落ちたが、翌年には修復されています。

紙芝居の上演いたします

・演目、時間など委細相談に応じます
・1話だけでも上演いたします

- ①小野口の由来 ②失せ物稲荷 ③帰ってきた馬 ④小松村七五郎 ⑤はたまが池 ⑥いたずら地蔵 ⑦古墳の話 ⑧こじんやがわの桜 ⑨十人力の藤兵衛 ⑩まんじゅうやの嫁と蛇 ※その他説意作成中
※幼稚園、小学校、子供会、シニアクラブ、いきいきサロンなどの皆さん、気軽に声をかけて下さい。

小野口の会

- 定例会 毎月 第3金曜日 9:30~11:30
於 浜名協働センター
※午後は現地巡り(不定期)
- 年会費 1,000円(1月~12月)
- 入会 随時受付(7月以降の入会は半額)
- 入会申し込み・お問合せ連絡先
会長 平野宣男 053-586-0479
事務局長 高林 正 080-5107-1328
《お気軽にご連絡ください》

編集後記

4ヶ月振りに、会報第5号を発行いたしました。前号と同じ、A3見開き4頁の全頁カラー印刷としました。第1号~第3号までのA4カラー用紙モノクロ両面印刷1枚のチラシ状の会報と比べて、情報量も増え随分とご覧に為り易くなったと自画自賛していますが、如何でしょうか? 皆さまからの、ご意見、ご指導をお待ちしています(正)

<昔の写真や資料を探しています>
小野口の会では、地域に残る貴重な写真や資料を探しています。もし、そう云った物を保存されている方は、会長(平野 053-586-0479)まで、是非ご連絡下さい。拝見させていただくだけでも有り難いです。

この会報は「公益信託チヨタ遠越準一文化振興基金」より助成を受けて発行しています。

明治十九年(1886)に平口村に生れた。大正十一年(1926)に浜松市立第一中学校(現静岡大学教育学部)を卒業し、濱松市立第一中学校教員となり、現職。濱松市立第一中学校校長を歴任し、退職した。

年(一九二五)に浜松市立第一中学校(現静岡大学教育学部)を卒業し、濱松市立第一中学校教員となり、現職。濱松市立第一中学校校長を歴任し、退職した。

退職した。濱松市立第一中学校校長を歴任し、退職した。濱松市立第一中学校校長を歴任し、退職した。

小野口人物伝

《お勤めウォーキングコース (内野地区の文化財を歩く)》



① 染地台野鳥公園 (染地台1丁目)



この地区は、古くから「小島山」と云われていた。昭和50年代には青少年スポーツの森、市営内野グランドとして利用した。その後、紆余曲折があったが、平成6年(1994)に「浜北新都市開発計画」による土地の買収で所有権が浜北市に移った。平成16年(2004)に「きらりタウン」の開発開始により、現在は染地台となり、周辺住民の憩いの場所である。

② 豊川稲荷神社 (染地台1丁目)



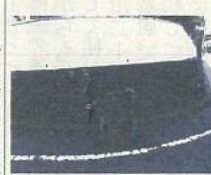
明治2年(1869)、江戸幕府の崩壊に伴い八王子千人隊と呼ばれる幕府家臣が120名余で八丁谷に入植しました。明治6年(1873)、千人隊の指導者町田正房と正壽院住職が、豊川より稲荷社を集落の氏神として迎え、心の拠り所としました。開拓に向かない土地で4年後には殆どの人が八王子に戻りました。その後、八丁谷で生涯を終えた人もあり、近く正壽院には、過去帳と墓碑があります。

③ 悪人地蔵尊 (染地台1丁目)



豊川稲荷の東側の石段の中腹にあります。金指のある住人は悪行を重ね文久3年(1863)に処刑されました。その後、ある人の夢枕に現れて「生前の悪の償いとして病を治す。治つたら一杯のお茶を供えて呉れ」とお告げがあった。それを聞いた住人が悪人地蔵として祀りました。その意があらたかた、重病が治った人が、祠を寄進し、勢の人が難病平癒に訪れるようになりました。今でもお供えの湯飲み、ペットボトルが山積みです。

④ 八丁谷切割記念道標 (内野台1丁目)



内野台では唯一の道標である。内野台のロータリー西へ約200mの三差路の左側の公道上にある。高さ90cm、幅50cm、厚さ10cm。上に横書き2行で、「八丁谷切割記念」その下に、右西ヶ崎 笠井道、左小松北浜、裏に、大正4年2月建立と建立者連名がある。

⑤ 秋葉山常夜灯 (内野西)



福応寺南にある。建造：大正10年(1921) 高さ：100cm、基壇：65cm、燈籠：190cm

⑥ 内野西道標 (「理容みやち」角)



内野西信号を東に約50mの理容店の前にある。理容店の方が、昭和30年代に店を開くため生垣を除去したところ、その下に埋まっていた。それを、掘りだして、現在まで大切に保管している。高さ：66cm、幅：26cm、厚さ：6.5cmあり、表面に「右宮口方面、左三方原道」と彫られている。

⑦ 馬頭観音 (内野西・杏林堂北)



以前に、この家の方が愛用していた馬が、近隣にない程の名馬でしたが、死去したので昭和38年(1963)に建立しました。高さは41cm。

⑧ 札木跡 (内野西・杏林堂南)



御陣屋川に架かる新屋橋の西袂に、札木跡の表札がある。江戸時代に、役所の通達を伝える高札があった場所である。当時は人通りの多い場所で、集落の中心地とも思われる。

⑨ 妙理白山大権現 (内野下)



近くの大久保一門の祖先で、加賀(石川県)から来たお姫さまが、400年前から祀られています。通称：白山様(はくさんさま)という。白山は、富士山、立山と共に日本三霊山と云われている。

⑩ 馬込川・御陣屋川合流点 (内野下)



御陣屋川の水源は平口の湧水池で、小野口地区だけを流れ、内野下で馬込川に合流する。全長3690mである。御陣屋の由来は、江戸時代に近藤家の陣屋が内野にあったことである。

浜名小学校 ブログ

[< 新しい記事](#)

[≡ ブログトップ](#)

[古い記事 >](#)

COUNTER

489.702

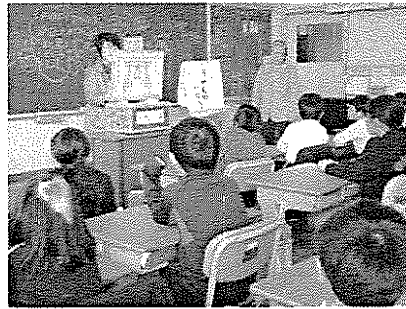
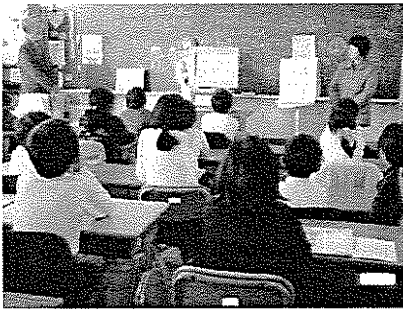
記事: 20 総目: 61

小野口の会 楽しい紙芝居

2020年2月12日

その他

小野口の会の方が、地域に伝わる伝説を、手作り紙芝居で紹介してくれました。
「小野口の会」は郷土の歴史を学び文化遺産を未来に引き継ごうと考えているそうです。



2年1組で紙芝居を読んでもくれました。
地域に残るお話を取材し、1枚1枚丁寧に作った紙芝居は、見ごたえがありました。

「失せもの」が見つかる御利益があるなんて、すごいです！
お参りに行きたくなりました。

次回は2年2組で行います。
楽しみます。

[< 新しい記事](#)

[≡ ブログトップ](#)

[古い記事 >](#)

リンク

[浜名小学校 ホームページ](#)

カレンダー

< 7 2021

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

最近の記事

2021.07.21
1年生の様子

2021.07.20
1学期終業式

2021.07.18
授業風景

2021.07.17
自然体験教室

2021.07.15
音楽発表会

2021.07.14
自然体験教室 (三ヶ日青年の家)

タグ

ぐりぐらくらぶ(0)

その他(135)

たてわりクラブの活動(3)

クラブ活動(33)

夢はく(406)

委員会活動(19)

学年(630)

学校行事(904)

安全パトロール隊(6)

給食(6)